
バレンタインなんか大嫌い！！

廣瀬 るな

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バレンタインなんか大嫌い！！

【Zコード】

Z6590D

【作者名】

廣瀬 るな

【あらすじ】

バレンタインなんか大嫌い！自分が告白できないからってお友達の光ちゃんにハツ当たりする、ちょっと可愛い女の子のお話。

「つまんない、つまんない、つまんない！！」「バレンタインなんかつまらない！！私はキッチンカウンターに頬杖付きながら向こう側でくすくす笑いながら生クリームを混ぜる光ちゃんに文句を言った。

「まあまあ。」

そう言いながら光ちゃんは私の手の中にあるココアの上に生クリームを少し分けてくれる。

「だつてさあ～」

クリームで出来たおひげを舐めながら私は言った。

「みんなどうしてバレンタインでこんなに騒ぐのかなあ。分かんない。製菓業界の陰謀だつて言うの、もう。所詮出来レースじゃない。告白した所で1ヶ月待つほどみんなお人好しじゃないんだしさ。何もつたいぶつてんのつて感じ。お菓子作れるのがそんなに偉いのかつていうの。」

ぶーぶー言つている私にちやぢやが入る。何しろ私は料理という料理がてんで駄目。光ちゃんとは正反対。唯一の「自慢は絵がうまい事。でもそれって食べれないじゃない？それをこの人は知つているから。

「そんな事言つて、仕方ないでしょ。世の中そくなつてているんだから。それより加恋かれんは誰かあげる人いないの。別にチョコ以外でも良いんじゃない？心がこもつてればさ。」

そんな落ち着いた口調が嫌い。

「知らない。それよりさ、光ちゃんは？もしかして今作っているの。・・・・」

すると当たり前つて顔で光ちゃんは笑つた。それも、とつても可憐く。食べちゃいたいくらい。

「勿論。コ・ク・ハ・クするんですよ。」

その声にはハートが浮かんでいて。

「でもって今晚その人と一緒にディナーにするんだ。サーモンのアミコーズに、パンプキンスープでしょ。チキンのコンフィ。もちろんデザートは……」

つて、小さく笑った。

「腹が立つ！しかも何それ。全部私の大好物じゃない！！」

「いいわよね、光ちゃんは幸せで。私だってね、私だってね……・！！」

そう言いながら私は立ち上がった。

「じゃあそうさま！」

もう、バレンタインなんか大嫌い！！

だつてね、私はずっと片思いなんだもん。彼は絶対私の事女の子だつて思つてくれてないし。周りだつて、みんな私と彼が友達だつて信じて疑つてもくれないし。その上去年も今年もチョコ作るの失敗したし。こんなんじや惨めじやない？あげくに光ちゃんの作ったあの極上スイーツなんかと比べられたりしたらや。どん底。

そんな風に落ち込みながら家まで歩いた。

悲しいな。今年も何も言えないまま過ぎちゃうのかな？

でも光ちゃん言つてたよね。心がこもつてたらつて……。

「ご免、光ちゃん。その人お家に帰して！！」

それから3時間後、私は勇気という勇気を振り絞つて光ちゃんの所まで言つた。玄関からはチョコの焼ける甘い香り。でも、負けないもん！

「今日女の子の日でしょ。だから男の子は遠慮して……光ちゃんが告白するのはなし……」「

その剣幕に光ちゃんはきょとんとしていた。

「はい、これつ！！」

私は小さなポストカードを彼に押し付けた。美味しそうなチョコレート。本物そっくりの、デリシャスって感じの私の絵。ああ、なんて絵だけは上手なんでしょう私。しかも上にはハートのマーク入りで、光ちゃんが好きつて書いてある。

「好きな。大好きな、光ちゃんの事。だからつき合つて……」「もう、いいもん。光ちゃんの告白が大成功して泣きを見るぐらいだつたらいつその事玉碎覚悟よつ！」

ぎゅつて目を閉じてぶるぶる震えてた。

「・・・もつての人、来てるし。帰つてもらいたくないんですけど。」

彼はそう言つて・・・・私を抱きしめてくれた。

「お馬鹿さん。もつと早く気づいていいもんだと思つんだけど？」

見上げたら彼の瞳が私の事を覗き込んでいた。

「加恋の事好きだつて言つつもりだつたけど、やめ。」

そう言いながらおでこにキスをした。

「今日は女の子からの告白の日、何だよね？」

嘘、嘘。バレンタイン大嫌いなんでもつ話こません。本当は大好き。私はその晩神様にお礼を言った。

「ありがとね。」

おしまい

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6590d/>

バレンタインなんか大嫌い！！

2010年10月10日11時47分発行